

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373201260		
法人名	社会福祉法人 清志会		
事業所名	紫明寮グループホーム		
所在地	熊本県天草市五和町二江567番地1		
自己評価作成日	平成23年3月18日	評価結果市町村受理日	平成23年4月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成23年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・安心して日常生活が楽しめ、出来るだけご本人の意思を尊重し、豊かで安定した毎日をお送り頂ける様、お手伝いしております。</p> <p>・家庭に近い明るく、のびのびした環境作りを目指しております。</p> <p>・お元気なうちは当事業所でのびのびと過ごしていただき、重度になられますと系列の特別養護老人ホームにお移り頂いて、清潔でゆったりした介護を受けることが出来ます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>紫の屋根、レンガ造りのお洒落な別荘風建物の玄関を一步入ると、広々としたデイルーム、その先にはイルカが泳ぐ真っ青な天草灘と、鳥や狸達が訪れる緑の畑が広がり、自然に囲まれたリゾートホテルを思わせる環境となっている。オープンキッチンに続くダイニングテーブルでは、お大師様に備えるダゴを作ったり、七夕飾りを作ったり、洗濯物を畳んだり、若い職員に魚のさばき方を指導したり、入所者一人ひとりが力を発揮し、のびのびと自由な生活を楽しめる暮らしの支援が行われている。体調不良時は系列医院の診察を受けることができ、看護師との連携体制もあり、利用者と家族の安心に繋がっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「親切、丁寧に、優しく、暖かく、そして積極的に」の理念のもと、安心して日常生活が楽しめ、安定した毎日をお送り頂ける様、支援しています。又、家庭に近い明るく、のびのびした環境作りを目指しています。	職員は「静かさ」より「エネルギッシュ」なホームであることを目指し、利用者が生き生きと生活できることの支援を目標にしている。親切・丁寧・優しく・暖かく、そして積極的に接することを理念とし、全職員が共有して日々の暮らしに反映させている。	理念の礎となっている、「エネルギッシュなホーム」について、職員間で話し合う機会を増やし、より具体的にイメージすることで、日々の生活支援も更に活気がでてくると思われる。また、パンフレット等に理念を表示したり、屋内に掲示することで、地域の人々への周知も図られると思われた。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の各種行事等(地域のお祭り等にも参加し、御馳走してもらったり、お話ししたり等)への参加の際に交流を重ねています。また買い物も地元のスーパーと地域の野菜市場を利用することにより交流を図っています。	ホームの立地が住宅地から離れた高台にあり、日常的に御近所に出掛けて行くことは難しいが、隣接して地域温泉センター「ユメール」があり、老人会員の入浴後には、数人での訪問があるなど、昔ながらの交流が続いている。また、地域の各種行事への参加や、地元スーパーへの買い物へ出向くなど、積極的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域代表の方に運営推進会議に出席して戴くことにより、事業所の運営状況を地域へ発信してもらっています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、入居者情報、活動報告を行い、会議での意見や要望を検討して、サービスの質の向上に活かしています。	市職員・区長・婦人会長・老人会長等の参加を得て開催し、ホームでの暮らしぶり・活動状況の報告・入居者募集についての相談等を行っている。委員のアドバイスから民生委員協議会での説明や、個々の民生委員、区長、班長等にホームについて説明する機会も増え、地域への浸透に協力が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者が参加され、事業所運営に関する取り組みを伝えていきます。	天草市役所と五和支所と、それぞれの交流があり、運営推進会議には、都合の付く職員が参加。行政からの訪問を「待つ」ではなく、「出掛けて行き」、情報を提供している。介護に詳しい区長もおられ、民生委員や社共の会議に出席して、ホームを紹介して貰う等協力体制がとられている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	系列施設に身体拘束廃止委員会があり、年間を通じた研修会や委員会に参加しています。	ホーム利用者全員、自由な行動でリラックスして寛ぐ姿が見られた。室内から廊下へ出るドアには鍵もなく、広く開いた玄関にも施錠はされていない。それでも安全を配慮して、玄関外に出たら事務所にブザーが鳴る仕組みがあり、その他、身体拘束に関する要綱は母体法人で開催される研修会に参加し、利用者に拘束をせず安全を確保するケアへの意識を高める努力がみられた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や毎月1回の職員総会、毎週月曜日の職員会、又毎日のミーティングの際に、虐待等の防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の概要が理解出来るようパンフレットを置いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、契約書や重要事項説明書の詳細について個々に十分説明しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族へ近況報告を御面会の都度お伝えし、毎月1回おたよりにより、体調や活動状況等をお知らせしています。又、日常的に御利用者にも気軽に御意見・御要望を表現できるように支援しています。	利用者の体調・日々の活動様子などを家族へ伝える「お便り」を毎月発行し、面会時の報告や連絡に加え、全員に状況報告が確実に届くことを重要視している。状況を家族が把握することから意見や要望が出て、施設運営や介護サービスに繋げることができるとし、訪問者からの意見を大切に聴き取っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員総会・主任会、毎週月曜日の職員会や毎日のミーティング、又必要に応じ随時、意見や提案を聞いています。	ミーティングで職員の気付きが提案され、ホームの運営の質に係わる対応と見直しを実施されている。職員が気を効かせて筋を取り灰汁抜きをしていた「落」も、利用者が筋摺りを手伝う事で指先を使うリハビリに繋がり、利用者の役立ち感に繋がるとして作業見直しを実施するなど、日々の暮らしに職員の意見が多様に取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働時間の把握を行い、適正な労働時間で就業してもらってます。また資格取得のための勤務調整や各種研修会等の参加でやりがいやスキルアップを図っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のための支援や勤務調整、又法人内外の研修を積極的に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列施設の職員が参加した研修等について、毎週1回の職員会で報告してもらい、サービスに役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面接時、入居時も御本人とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築きやすいようにしており、これまでの生活を尊重し、訴えを傾聴して日々の介護に活かす努力をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に御本人・御家族・関係者と共に見学や体験の機会を設け相談も受けており、家族との信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、御本人・御家族と面談し、何が必要かよく検討し、緊急性が高いケース等に関しては母体施設と連携し、他のサービスの検討や連絡・紹介をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の活動や季節の行事、野菜作り・花作りなど入居者の方より教えて頂く場面が多々あり、助け合い・補い合って共に過ごす関係を保っています。(お大師様の団子、節句のチマキ等も一緒に作っています)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族は御本人を支えるチームの一員であることをお伝えし、本人と家族の架け橋になれるような関係作りに努力し、遠距離在住の御家族には文書等で状況報告し、一緒に御本人を支えていく関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に可能な限りでの面会を御家族にお願いし、人の温もりや存在感が実感できるよう御家族と協力しています。隣接する温泉の利用時に来訪される関係者も多く、訪れ易い温かい雰囲気作り心がけています。	隣接する温泉センターに入浴に訪れる老人会会員は、必ずと言ってよいほど帰り道にホームを訪問し、昔馴染みの友人に声を掛けてくれる。これは、母体法人が地域老人会との歴史ある交流から育まれたもので、庭の手入れに地域の人々が立ち寄ってくれる状況と同じで、温かい関係継続が確認される。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流の場所や場面で橋渡しを行なって相互交流の深まりを援助するとともに、コミュニケーションを取りやすい配置等の配慮にも心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御本人が重度になられますと、系列施設である特養にお移りいただき、相互交流を継続しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や行動の中で、御本人のやりたいことを察知したり確認したりしています。	職員は利用者の行動を一切規制せず、のびのびとした暮らしを支援することを基本としており、料理しながら、掃除しながら、常に利用者を見守っている。現在、利用者が五人と少なく、厨房・食堂・リビングが一つのフロアで見通しが効くことから、思いや意向の把握も無理なく出来ているが、利用者が定員の九人になった場合、新たな意向確認・把握のための取り組みが必要になると思われた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族から生活歴やライフスタイルを聞いており、入居後は日々の生活の中で発見し、確認をとっています。また御家族の面会時にも情報を得よう心掛け、職員間が情報を共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌やケース記録により日々の変化を確認し、情報を全職員で共有することで、小さな変化も気づける体制作りに努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	他の職員の気づき等も反映し全職員の意見を基に介護計画を作成しています。又御家族の面会時には意向をお聞きし、プランに反映するよう努めています。	現在、個別の見守りとチェックが五人分で、職員数からも無理せず実施されており、利用者の様子や家族からの要望等も全員で確認していることから、介護計画とモニタリングは、現状に即した対応が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや御本人の状態変化は、個別のケース記録や日誌に記録し、情報や気づきを共有をしており、計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の状態に応じ、かかりつけ医の診察等受け支援しています(他の内科・歯科・眼科の医療機関へも通院)。又グループホームでの対応が困難になっても安心して生活の維持が出来るよう系列施設の特養と連携しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する温泉施設は地元の老人会の集会場になっており、利用者の顔なじみの方がよく顔を出して下さる。又地元の保育園の運動会見学、花菖蒲祭り、地域の作品展への参加等毎年楽しみにされています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による診察を受け、病気の早期発見に努めており、必要時はかかりつけ医の指示により、協力医療機関への通院も行っており、適正な医療を断続的に受けられるよう支援しています。	協力医師は母体医療法人の理事長。系列の特別養護老人ホームへの往診に合わせてホームへ行き、診察を受けるなど、掛かり付け医への通院の他、病気の早期発見に併せて必要な医療が継続的に受けられる支援がみられた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックや様子観察を行い、系列施設の看護職員に毎朝報告し、かかりつけ医へ連絡する体制を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には御本人に関する情報提供を行い、安心して入院できるように支援し、御家族とも回復状況等の情報交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人が重度化された場合は、系列施設である特養へお移り頂いて、安心した介護が受けられるよう入居時に御本人・御家族にお話しています。	入所時に、家族と本人から「病気が重度になった時や、終末期の在り方」について説明を実施。また、系列施設の特別養護老人ホームから看護師の支援派遣や転院対応も説明され、安心できる介護への対応が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	御利用者の急変時や事故発生時は系列施設の看護職員との連携体制を整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を整備し、定期的に火災(夜間想定含む)等の避難対処訓練を実施しています。又自動非常火災報知器を設置しており、系列施設と連携し、緊急時の協力体制を整えています。(年2回の防災点検、消防査察、年2回の避難訓練、消火訓練の実施)	ホームは周囲3.9kmの通詞島の高台にあり、全島民640人の中から30名からなる連絡網で、緊急時に駆け付けてくれる取り組みがある。火災報知機の設置や系列施設との連携は勿論、消防署からも頻繁に訪問があり、年2回の査察・避難訓練・消火訓練で、利用者が元気が良い分慌てることのないように・・・と、繰り返しの対応が取られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎日お風呂に入っていますが、さりげなく声掛けし、お風呂に入りたい時間になるべくお連れしています(自尊心が損なわれないよう配慮しています)。	入浴も排泄も、周囲に全く気付けさせない対応で、「気持ち良かったよ」の会話で入浴したことを気付き、トイレ利用もさり気無い誘導で、本人のみの対応は、誇りやプライバシーに配慮されていた。食事時の会話も、祖母と孫のような自然な雰囲気であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日のあらゆる生活場面においてご本人の意思をお聞きし、本人の気持ちに沿って行動出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活リズムやペースを考慮し、意見や希望を尊重し援助しています。特に体調の悪い時は注意深く観察し、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床、入浴後は乳液等を用意されたり、行事等には化粧もされ、その人らしい身だしなみを個別に支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑から野菜を収穫し、本人の特性に合わせ、皮むき・味付け・盛り付け等、可能な限り活動を担って頂いています。海の幸・山の幸に恵まれた立地を生かした食材を使い、季節を感じて頂ける献立作りに努めています。本人の特に好みのものを作るように時々リクエストして戴いています。料理は施設からプロのリーダーに定期的に指導頂いています。	ホームのベランダの先に菜園があり、ブロッコリー、玉ねぎ、まめ等が作られ、朝夕の食卓に利用されている。また、散歩に出かけた際、農家の人からジャガイモの収穫物をお裾分けしてもらったり、近くのスーパーに買い物に同行して商品を選ぶなど、食に対する関心を高める工夫がとられている。なお、特養の専門調理師が、だしの取り方や新しい料理を指導するなど、美味しい食事の提供のための努力がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、10時・15時おやつの摂取量と水分量をチェックし、栄養保持を確認し、夜間の水分補給用に居室にも白湯を準備しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがい・歯磨き誘導を行い、状態を見ながら歯科通院の援助も行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを職員が把握し、自尊心を傷つけないよう見守り、介助しています。外出時排泄等を心配されるので、目立ちの少ない尿取りP、下着等の情報も提供し、安心して外出されるよう支援しています。	人間の自尊心の最後の砦と言われる排泄対応は特に重要として、排泄パターンを把握し、見守り・介助が行われている。外出時の排泄配慮は、目立たず、吸収の良い尿取りパットやオムツ・下着情報を提供し、選べる仕組みが作られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に努め、食物繊維を多く含んだ野菜を取り入れた献立に心掛け、散歩・体操も体調に合わせて取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴を行い、職員が個々の好みの湯加減等把握し、さりげなく声掛けしお風呂に入りたい時間になるべくお連れし、楽しんで入浴頂く環境作りに努めています。	お風呂は一人一人の個浴。現在は普通の家庭用浴槽に職員の介助でひとりづつ入浴しているが、普通の浴槽が使えなくなった場合を想定し、浴槽の淵が上下し、腰掛けのまま入浴が出来る最新浴槽「ポランチ」が設置され、利用者のプライバシーに配慮した対応となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は活動的(グループワーク、体操、散歩)にお過ごし頂き、希望や体調に合わせて居室にて休んで頂いています。またテレビ鑑賞も皆様一緒に楽しんでいます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	御利用者の薬について、用法・用量・目的等について職員間に申し送り、把握出来るようにし、服薬介助後はチェックリストにて確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理・洗濯(干す、たたむ)等、生活全てにおいて御本人の特性に合わせて、御一緒に実施しています。野菜作り・花作りでは大変興味深い方が多く、たくさん意見があり、交流が深まり笑い声がにぎやかです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	初詣や陶器市、花見、ツツジ見学、菖蒲見学等、年間を通して季節を実感できるドライブ等、御利用者の方と話し合い出掛けるよう支援しています。	近くのスーパーに食材買いに出かけたり、空きやとなっている自宅の様子を確認に行ったり、近くのジャガイモ畑の収穫を見に行ったり、日常的な外出支援があった。また、お弁当を持っての花見や、つつじや菖蒲見学など、楽しみの支援も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の協力を得て、小額を手元に持たれ、ドライブ・希望時等買い物され、おたよりにて御家族にはお知らせするようにしています。定期的に衣類のショッピングも出前の形で特養施設・デイと一緒に楽しんでお買い物されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は御本人が希望される際、職員が付き添いの上使用され、グループワークの一環として年賀状を作成し御家族に出されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆとりのある広々とした空間を提供し、可動式の間仕切りで目的に応じた空間とすることができ、又目の前に海が一望できるベランダもあり、思い思いの場所で過ごしておられ、テーブルには季節の花を飾り楽しんでいます。	リビングや食堂は一望に天草の自然が見渡せるガラスの大窓を持ち、イルカが泳ぎ、釣り舟が往来する風景が見渡せる。天井が高く、広々とした共用空間は、入居者がそれぞれに寛いでおり、散歩の途中で摘んだという花が飾られて、温かい雰囲気を作っていた。冬は床暖房で、天井の扇風機が室温を調整。夏は窓を開放すると自然の風が流れ、四季の移り変わりを肌で感じることができる共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニング・リビング、目の前に海の広がる畳の間の他、ホールの要所にはテーブル・椅子、ゆったりと腰を下ろせる場所を設けており、又海を一望出来るウッドチェアもあり、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇やお大師様等、又御自宅で大切にされていた家具等持参され、仏壇には毎日、お花、お水、お供え等あげられています。	広々とした居室は、仏壇や自宅で使っていたタンス等の家具を持ち込んだ入居者もあり、ゆとりがあり過ぎて使いこなすのが少々難しい程。ご仏飯やお水・お花を供えるなど、自宅での日々と同じようなリズムでの生活が展開されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御利用者のお部屋の居室ネームは、職員と御本人共同の手作りにて分かり易くし、トイレには「入ってます」の札をつけ、お知らせ頂き、自立を促しながら、安心して暮らして頂ける環境作りを目指しています。		